

取材協力

原農園 原 聡志さん

サラリーマンからイチゴ農家に転身して10年あまり、今では14haの土地で、章姫（あきひめ）や紅ほっぺなどの品種を育てている。直売のほか3年前に観光農園「ちっちゃな農園」も始め、ジャムやジェラートなどの6次産業化にも取り組む、地域で人気の農園だ。

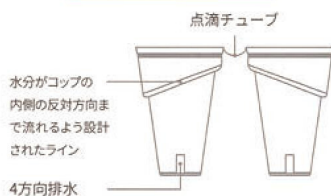


点滴灌水での育苗で活用！



— CLOSE UP ITEM —

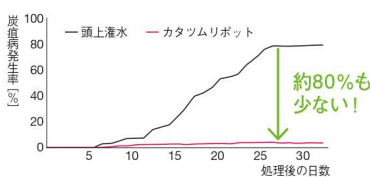
カタツムリポット



点滴チューブ
水分がコップの内側の反対方向まで流れるよう設計されたライン
4方向排水

炭疽病と病害虫の予防に効果的！

●育苗期間中の炭疽病累積発生率比較



(韓国国立慶尚南道農業技術院調べ：実験期間：2008-2009年)

頭上灌水に比べ、カタツムリポットを使用した点滴灌水では、約60～80%も炭疽病発生が少なくなった。病気の感染が防げるという点滴灌水のメリットをカタツムリポットでは最大限活かすことができる。

DATA

カタツムリポット C型24口
※灌水ラインが縦横にあり、縦6列or横4列に対応可能。
容量：175ml (培土量)
サイズ：510×340×100 (h)
価格：860円

病気を防ぎ、効率的な育苗へ！ 点滴灌水用のイチゴ育苗用トレイの 使い心地は？

質の良い苗を育て、なるべく手間をかけずに定植したい……。育苗作業を支える画期的なプラポットを使用している岐阜県恵那市のイチゴ農家にお話を伺ってきた。

photo: Noriyoshi Yamamoto text: Iwata Takeshi

イチゴの育苗は病気との戦いでもある。育苗中に葉に水がかかるだけで病気になることも多い、その病気が蔓延することもある。育苗中の苗への水やりはイチゴ農家にとって悩ましくも繊細な作業で、水が上手く土に入り、根全体へ行き渡らない事も課題であった。育苗作業を支えるプラポットはこれまでにいくつも販売されてきたが、効率的な水の経路とポット内での根張りの良さを追求したアイテムは中々出てこなかった背景がある。今回紹介する「カタツムリポット」は韓国発祥の特許取得アイテムだ。一見すると何の変哲もないポットに見えるが、実はポット内に水が回る経路や葉に水が掛からない設計など随所にこれまで育苗の課題点を解決する工夫が盛り込まれている。

ポットには専用の点滴チューブから滴る水を受ける溝が掘ってあり、そこから各ポットに水を流すのだが、カタツムリポットの最大の特徴は設けられた傾斜のおかげで水が根全体に行き渡ることだ。今年度の育苗からカタツムリポットを150パレット導入した、岐阜県恵那市の原さんも「従来品と比べ明らかに根張りが良い」と舌を巻く。従来のポットでは掛けた側だけに水が溜まったり、表面だけ水が掛かったりと問題が多かったが、取水口が盛った土よりも下にできること、傾斜のついた機構のおかげでこれら問題点が見事に解決されている。

「別のポットで育苗していて、定植の際に土がはがれて手間が掛かったり、根張りが悪く育ちが悪かったこともありました。水やりの手間や病気などのリスクから育苗を行っていた周りの農家の方にもオススメしていますよ」。